



2020年後半の主な活動 および 2021年の活動予定

緊急事態宣言もようやく解除されたものの、変異種の感染拡大が報告される中、相変わらず不安な毎日ですが、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

去年は、私たちヘリテージマネージャー協会も多人数で集まってイベントを行うことが制限され、7月の総会もメールによる文書での決議となりました。毎月の役員会も、1年間を通してほぼオンライン会議で行いました。

2020年後半の活動

逗子プロジェクト: 2年間で成果を挙げようとしている逗子プロジェクトは、第2回調査を感染が下火になった秋に計画しましたが、当日は暴風雨になり残念ながら中止でした。その一方で、逗子プロジェクトでの取り組みを、湘南邸園文化祭のシンポジウムで報告する機会が12月に与えられ、その様子が逗子葉山経済新聞のウェブ版記事になりました。また逗子では現在、2件の登録有形文化財の申請に、当協会が積極的に関わり、2月の文化庁実地調査を終え進捗中です。

スキルアップ講座: 昨年11月にオンラインで座学を行い、12月に少人数で実地研修を行いました。会員の相馬立夫さんに講師をお願いし、限界耐力計算を学びました。

オンラインの座学では、充実したテキストと参加者の質問への丁寧な講師の対応により、限界耐力計算の基本を学び、それを藤沢市の古民家を使っての実地講座により体得するという、大変実りのある講座でした。



オンラインでの役員会



逗子葉山経済新聞ウェブ版記事



2021年の活動予定

秦野・伊勢原プロジェクト: 逗子プロジェクトに続き、県央地区（秦野・伊勢原）の存在確認調査を計画しています。

秦野市は、2000年の近代和風建築調査記録書には、県内最大数（約240件）のリストがあり、歴史的な建物が多く存在していましたが、この20年間でかなりの数の滅失があるようです。

また伊勢原市には、大山講の宿坊群があり、これらについて先行して調査を実施している他の団体との協業も予定しています。

養成講座再開の準備: 2015年の補講をもって中断しているヘリテージマネージャーの養成講座を2022年から再開するべく、役員会で準備を進めています。

全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会でのアンケートでも、各県での養成講座の継続が難しい中で、私たちも自前だけでなく、他県のヘリマネ協会との協業や、他団体の講習との講座の連携などを探りながら計画中です。

メンテナンス手帳: 歴史的建物の所有者に向け、修繕や日常管理、防災などについて、役員会を中心に、様々な専門家の知見をいただきながら手引書として作成する予定です。作業するワーキンググループのメンバーを募ります。

新たな顧問: 関東学院大教授の黒田泰介先生に2021年より顧問に加わっていただき、現在の菅先生に加え2人体制で活動へのアドバイスをいただくことになりました。

黒田先生には自己紹介も兼ねた講義を予定いただいています。ご期待ください。

(加部 佳治)



限界耐力のスキルアップ講座



秦野中心部